

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170102566		
法人名	医療法人友愛会		
事業所名	福光グリーンホーム(れんげ)		
所在地	岐阜県岐阜市福光東3丁目10番8号		
自己評価作成日	平成22年9月30日	評価結果市町村受理日	平成22年12月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2170102566&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成22年10月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・木造で、住宅街にあり、明るく落ち着いた雰囲気のホームとして7年目を迎え、地域の中でのグループホームが少しずつ定着してきている。毎年秋には、自治会の協力を得て、文化祭を開催し、地域のかたがたとの交流の場となっている。・地域の方がボランティアとして関わってくださり、幼・小・中・高生ともふれあう機会を持っている。特に、小学校では、総合学習の場となっている。・入居者の方は、家事をスタッフと一緒にいき、持てる力を発揮できる場を提供している。・理学療法士に個別機能訓練の指導を受け、毎日実施し、身体機能低下防止に取り組んでいる。また、本人の希望により、散歩等の外出支援も行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

市の景観賞を取ったこのホームは、天然木をふんだんに使用した耐震設計となっている。3ユニットがそれぞれ、個性あるホームとなっているが、職員は常に利用者の状態に気を配り、全員で共有できるよう、きめ細かい申し送りなどを行っている。母体が医療法人であり、看護師も非常勤であるが配置されており、本人・家族は勿論のこと、介護にあたる職員の安心も得ている。グループホームのサービス提供体制強化加算(1)の介護福祉士配置基準も満たし、介護を行う職員の意識と質の向上にも繋がっている。住宅街のホームであるが、近隣の商店もあり、学校との福祉交流もあるなど、様々な取り組みを通し、地域内でも名を知られたグループホームとなっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価票(れんげ)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員で話し合って事業所独自の理念を作りあげた。その理念を各ユニットに掲示し、全職員が理念を共有して実践にあたっている。	地域の一人としての関係を大切に「その人その人に合った個別ケアを」理念としている。全職員で、理念の意義を確認・共有し、経過を振り返りながら、一人ひとりの、気持ちを大事にするケアを実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	事業所として自治会に加入し、清掃や防災訓練・敬老会等に利用者が参加して地域の一人として日頃から交流している。又、秋には、地域の方の協力を得て「文化祭」を開催し、多くの地域の方に参加していただいている。	自治会の一人として、清掃活動・敬老会等、地域行事に参加している。小学校や中学生との福祉交流やホームイベントには、多数の住民を招待している。また、認知症サポーター講座を、地域で開催するなど、積極的に交流の機会を設けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の理解や支援のあり方について検討し、「認知症サポーター養成講座」を開し、地域の方々に参加していただいた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、市役所の担当者・自治会長・班長・民生委員・日赤奉仕団・ご家族の代表に参加していただき、入居者の生活の様子を報告したり、防災やホームと地域の行事を交流すること等、種々意見をいただき、サービスの向上に活かしている。	会議には、行政・自治会長ほか地域関係者・地域包括支援センター・家族代表の参加がある。参加者からは、町内行事の案内や、ホーム行事での地域交流、避難訓練時の提案などの意見がある。それらの意見・提案は、サービスの向上に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に出席を依頼し、その際指導・助言をいただくようにしている。又、実施指導で受けた内容や日常的にわからないことを聞いたり、連携を密にとるようにしている。	市には、事業所の実情を定期的に報告している。運営について分からない点や、空き部屋を使用した短期の宿泊利用が可能かどうかなどの質問を行い、助言を受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員研修を通し、身体拘束廃止に向けて取り組んでいる。玄関の施錠については、現時点では、事故防止のため施錠しているが、将来的には開放できるように検討していきたい。	どんな事例が身体拘束になるのかを研修で確認し合い、拘束廃止に向けて取り組んでいる。車椅子は移動のみに使用するとしているが、玄関は安全のため、例外として施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員研修を開催して学ぶ機会をもち、虐待が絶対にならないように努めている。		

岐阜県 福光グリーンホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業を活用しておられる方があり、スムーズに制度活用ができるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居にあたっては、重要事項説明書で充分説明を行い、理解・納得の上で、利用契約を結ぶようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が来訪の折や、サービス担当者会議等で意見・要望を聞くようにしている。さらにはユニット会議やリーダー会議に反映している。又、玄関にご意見箱を設置している。	家族の訪問頻度が高く、その都度、要望や希望を聞いている。意見・要望は、全職員が把握できるよう、記録し共有している。また、家族アンケートも、定期的に行い、内容を職員会議に送り、ケアに反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のリーダー会議・ユニット会議・全体会議に担当部長・統括責任者・管理者も必ず出席し、職員の意見や提案を聞くようにしている。又、管理者はそれ以外でも、スタッフからの意見をいつでも聞くようにしている。	毎月、幹部を交えたユニット会議や、全体会議で職員の意見を聞いている。研修会への参加希望や、職場環境を良くするための意見がある。意見・要望は、リーダー会議で検討し、対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務実績や日々の努力を評価し、給与・賞与等に反映できるようにしている。又、有給休暇もリフレッシュ休暇として、希望の日に取りれるような体制をとっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月、法人内研修が開催されているので、勤務以外の職員は参加している。又、キャリアアップのため希望する外部研修にも参加できるように推進している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修等を通して、他施設と交流を持ち、ネットワーク作りをしている。又、相互に訪問する機会もつくり、サービスの質の向上につながるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設見学の際や、入居者の事前面談では、話しやすい雰囲気作りに努め、ご本人より出来る限りお話を聞くようにし、ご本人にとって、安心が得られるような場となるよう関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に至るまでのご家族の不安や困っていること・要望等をじっくり聞くように努め、信頼関係を徐々に築いていけるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学にこられた折に、ゆっくり施設内を案内し、ご本人にとって本当に今必要な支援は何かを考える機会を持ち、いろいろ提案できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	尊敬の気持ちを持ち、利用者様の立場を考え、共に活動することにより、共感し支えあう関係を築いている。利用者様が語る体験や昔話の中から、さまざまな事を教えていただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の状況をご家族に報告し、わからないことや、対応が難しくなった時等の相談をしながら、共に本人を支え合う関係を築くようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や、ご親戚、友人、知人等の来訪は、自由にいただいている。又、外出や外泊、ご家族の宿泊もできるようにしている。	知人や友人が気楽に遊びに来ている。毎日訪れる家族もあるが、遠方の家族が来やすいように、居室で宿泊できるようにしている。また、日常的に、散歩の途中に、馴染みの商店や花屋へ寄るようにして、関係が途切れないように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ユニット内で顔なじみの関係ができています。他の方がおられないと不安になられる方もいます。孤立しやすい方には、歌やゲームの声かけをし、皆が参加できる場を提供しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も必要に応じて、相談や支援ができるよう関係を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃から本人の希望を聞くようにしている。会話では上手く表現できない人には、日々のケアを通して、本人の喜ばれることを把握し、ユニットのケアカンファレンスで、本人本意のケアのあり方を検討している。	日頃の会話や、表情・仕草から、思いや意向を把握している。それらは、職員間で共有し、利用者の思いに出来るだけ添えるように、日々のケアに繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面談で、ご本人や家族から生活歴やなじみの暮らし方・生活環境を聞き取り把握し、アセスメント票に記入している。その後も来訪時に、情報を得るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の様子を記録し、スタッフが確認できるようにしている。変化等については、申し送りにて報告し、常に現状を把握出来るように対応している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のユニット会議で個別のケアカンファレンスを行っている。又、3ヶ月毎に本人・家族を交えてサービス担当者会議を開催し、モニタリングの結果を伝え、本人、家族の希望も聞いて、介護計画を作成している。	3ヶ月毎の介護計画作成時には、家族と利用者もサービス担当者会議に同席し、話し合いが行われている。本人・家族の希望を取り入れ、自立を重視した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に日々の様子やケアの実践内容をケース記録に残している。毎月のモニタリングやケアカンファレンスを通して職員間で情報の共有化を図り、介護計画の見直しを行い、ケアを実施している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	看護師の配置により、入居者の体調管理等が24時間できるようになった。又、理学療法士との連携、地域包括支援センター、ボランティアセンター等、地域資源の活用も行っている。		

岐阜県 福光グリーンホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の日赤奉仕団等がボランティア活動をして下さったり、お茶会や三味線の会を開いてくださっている。幼・小・中・高生との交流もあり、豊かな暮らしができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅時からのかかりつけ医への通院や往診をうけておられ、本人や家族の意向を重視している。予防接種や健康診断も家族の要望にそった対応をしている。	入居以前からのかかりつけ医には、家族が同行して受診を行っている。入居を契機に、ホームの協力医に変更した人には、毎月の往診がある。また、看護師と主治医が、常に連絡が取れる体制であり、適切な医療を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤看護師が配置され、主治医との連携、利用者の健康管理にあたっていおり、ケアスタッフと情報の共有化を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入居者の入・退院時には、看護師が中心になり、医療機関との情報交換を行い、安心した治療を受け、早期退院ができるよう調整をとるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の対応は当ホームでは契約時に説明している。重度化し、当ホームでの対応が難しくなった時には、他施設や病院への転院等がスムーズに行くよう相談、支援している。	入居時に、ホームで介護できる範囲までということの説明し、その指針に家族の署名を受けている。重度化の進行に応じて、主治医や家族、看護師、ケアマネジャー等で話し合い、他の施設や医療機関へ転居できるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時に備えてマニュアルが整備しており、職員に周知している。事例が起こるごとに検証、研修の場としている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	入居者一人ひとりの避難方法を居室の入り口に掲示している。運営推進会議でも災害対策をとりあげ、ホームでの限界、地域の方々への要望、役割を伝え、協力依頼をしている。年2回の避難訓練も実施している。	リビングや居室には煙感知器とスプリンクラーが設備されている。避難訓練は、年2回行い、緊急時の連絡法や、夜間想定訓練を実施している。地域内の協力が得られるよう運営推進会議で働きかけている。	災害は火災のみならず、広域的な災害も予想される。地域の人々の協力が、実際に得られるように、運営推進会議での取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として自尊心を傷つけないような言葉使いに心がけている。排泄や入浴介助の際もカーテンや扉を閉める等に配慮し、プライバシーの保護に努めている。	接遇研修で、利用者の呼び方や声かけ、言葉の使い方などを学習している。居室に入る際は、ドアをノックして声をかけた上で入室するなど、その人を人生の先輩として重んじた対応を、常に職員間で確認し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話の中から本人の希望などを聞き取るようにし実践に結びつけている。又、会話のみならず、日々の行動においても観察し、何を希望されているのか汲み取るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかに決まっている日課を中心に、起床・入床・食事の時間等本人の希望を重視し、希望に添える努力をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に1回程度、出張理容師さんに来てもらい希望者がカットしてもらっている。外部の美容院に行かれる利用者もおられる。服の着替えは選べる方には選んで頂き、介助の必要な方には介助をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	平日は献立が決められているが、誕生会や行事のある時等、嗜好を重視したメニューを提供している。スタッフも一緒に会話を楽しみながら食事をしている。又、調理や片付けなども一緒に行っている。	食事を楽しめるように、嚥下体操の成果が上っている。利用者は、普通食を摂り、職員も同じ食事を一緒に食べながら会話を楽しんでいる。利用者も、配膳の準備やテーブル拭きなど、得意なことを担っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の生活習慣、嗜好を考慮し、低栄養・脱水にならないよう、好みの飲み物等を用意している。摂取量はきちんと記録し、毎日集計・管理している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食前のうがいと毎食後の歯磨きを行うよう声掛け誘導を行っている。義歯の方については毎日預かり管理すると共に定期的に消毒を行っている。		

岐阜県 福光グリーンホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄チャートに排泄状態を記録することで、排泄パターンを確認しそれに基づいた声掛け、トイレ誘導を行っている。安易にオムツを使用することは避けている。	利用者の排泄パターンに基き、さり気なく声をかけ、トイレ誘導を行っている。こまめの誘導で自立を高め、オムツの使用を減らしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日可能な限り排便量・便の状態の確認を行い、記録している。集団リハビリ体操や散歩、レクリエーション等を通じ体を動かす機会を提供している。水分補給にも充分配慮し、本人の好きな飲み物の提供など工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望があれば毎日でも入浴していただける環境作りをしている。入浴を拒否されがちな利用者については声掛けのタイミングを図ったり、同姓介護などに努めている。午後入浴が基本であるが、午前・夜間、必要に応じ対応するようにしている。	入浴は、希望があれば毎日でも、また、夜間でも入れるようにと配慮している。利用者の体調や希望によって、足浴やシャワーも柔軟に行い、ホームで暮らす利用者の楽しみとなるよう心配りを行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間・消灯時間はそれぞれの生活習慣や身体状況に応じて自由にしている。日中でも自由に居室にて休養できるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局から発行される薬剤情報を個人のファイルにはさみ常に確認、把握できるようにしている。服薬介助の際も、誤薬防止の為、名前や日付を声に出し、確認してから服薬していただいている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日中の楽しみや、やりたいことを聞き取り、個別に提供できるようにしている。散歩による気分転換や家事など、スタッフと共に行いホームの中で役割を持ち、張り合いや喜びのある日々を過ごせるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日等は出来るだけ散歩に出かけるようにしている。時には、家族の協力も得て外出支援をしている。	利用者を、2・3人のグループに分け、近隣の薬局や商店・和菓子屋などに、散歩も兼ねて外出している。利用者が希望する墓参り等、普段行けないところには、家族が同行して、利用者の願いを叶えている。	

岐阜県 福光グリーンホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員は、本人がお金を持つことの大切さは理解しているが、自己管理困難な利用者がほとんどで家族の同意を得て管理している。、利用者の要望により、対応できる体制を作っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族との絆は大切にしたいと考えている。本人の希望に応じ家族への電話は家族の都合の良い時間帯に支援していくようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全体が木造建築となっており、中には和室もあり落ち着ける雰囲気づくりが出来ている。フロアの照明も電球を使用している。ユニット間も廊下を通り自由に行き来が可能であり、生活の中にも変化を求める自由がある。	天然木のかもしだす優しい雰囲気は、居心地の良い空間となっている。リビングでは、ほとんどの利用者が日中を過ごし、食事が出来上がる匂いに食欲をそそられながら、ゲームを楽しみ、空調・採光なども申し分ない共用空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間であるフロアは、食事をする場所とテレビを見たり歓談できるスペースが有り、利用者が好きな時に好きな場所で過ごすことが可能となっている。廊下には長椅子が置いてあり、ひとりで過ごしたい時の居場所の確保も出来ている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具、写真、思い出の品で居室を自由にアレンジし、利用者様本人の好みの居室作りを家族・本人と共に工夫している。	部屋ごとに色の違うのれんが下げられ、表札は、利用者の手芸品や作品と一緒に飾られている。壁には、家族の写真や誕生日祝いの色紙も貼られ、ベッドや家具は、使いやすく配置され、個性ある居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロアや廊下、階段に至るまで手すりを設置し、又全面バリアフリー化してあり、誰でも安心して歩行できるように配慮してある。居室には表札、トイレには誘導表示して、安全で自立した生活ができるようにしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170102566		
法人名	医療法人友愛会		
事業所名	福光グリーンホーム(らいらっく)		
所在地	岐阜県岐阜市福光東3丁目10番8号		
自己評価作成日	平成22年9月30日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日			

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票(らいらっく)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員で話し合って事業所独自の理念を作りあげた。その理念を各ユニットに掲示し、全職員が理念を共有して実践にあたっている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所として自治会に加入し、清掃や防災訓練・敬老会等に利用者が参加して地域の一員として日頃から交流している。又、秋には、地域の方の協力を得て「文化祭」を開催し、多くの地域の方に参加していただいている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の理解や支援のあり方について検討し、「認知症サポーター養成講座」を開し、地域の方々に参加していただいた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、市役所の担当者・自治会長・班長・民生委員・日赤奉仕団・ご家族の代表に参加していただき、入居者の生活の様子を報告したり、防災やホームと地域の行事を交流すること等、種々意見をいただき、サービスの向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に出席を依頼し、その際指導・助言をいただくようになっている。又、実施指導で受けた内容や日常的にわからないことを聞いたり、連携を密にとるようにしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員研修を通し、身体拘束廃止に向けて取り組んでいる。玄関の施錠については、現時点では、事故防止のため施錠しているが、将来的には開放できるように検討していきたい。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員研修を開催して学ぶ機会をもち、虐待が絶対にならないように努めている。		

岐阜県 福光グリーンホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業を活用しておられる方があり、スムーズに制度活用ができるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居にあたっては、重要事項説明書で充分説明を行い、理解・納得の上で、利用契約を結ぶようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が来訪の折や、サービス担当者会議等で意見・要望を聞くようにしている。さらさらユニット会議やリーダー会議に反映している。又、玄関にご意見箱を設置している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のリーダー会議・ユニット会議・全体会議に担当部長・統括責任者・管理者も必ず出席し、職員の意見や提案を聞くようにしている。又、管理者はそれ以外でも、スタッフからの意見をいつでも聞くようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務実績や日々の努力を評価し、給与・賞与等に反映できるようにしている。又、有給休暇もリフレッシュ休暇として、希望の日に取りれるような体制をとっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月、法人内研修が開催されているので、勤務以外の職員は参加している。又、キャリアアップのため希望する外部研修にも参加できるように推進している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修等を通して、他施設と交流を持ち、ネットワーク作りをしている。又、相互に訪問する機会もつくり、サービスの質の向上につながるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学や相談に来られた時、本人が困っていることや不安・要望等をよく聞くようにし、ホームでの生活が安心の場となるよう関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に至るまでの間に、家族が、困っていることや不安・要望等をよく聞き、信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の話をよく聞き、その時必要としている支援を見極め、いろいろ提案できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の長い人生経験から得た知恵を教えて頂いたり、豊富な人生経験の貴重な体験談を聞かせて頂いたり、スタッフの失敗談で談笑したりしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、利用者の近況を家族に報告し、ケアのアイデアを頂いたりして、共に本人を支えていく関係が築いていけるよう務めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や親戚、兄弟などホームに来訪頂いたり、外出や外泊等、自由にできるよう支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お一人お一人の個性をつかみ、それを生かしながら、他者と協調していけるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後も、文化祭へ来ていただいたり、断片的な接触ではあるが、継続的に関わってもらっている家族もある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意思を尊重し、入浴、散歩、買い物、レクリエーション、行事等、その都度本人に希望を確認している。また、本心を言いやすいよう、日頃から利用者のありのままを受け入れるようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から、生活歴、生活環境等を聞き取り、情報収集に努めている。又、日々の暮らしの中で本人から今までの話を聞かせていただいている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の様子をケース記録に記入し、バイタルチェック表や排泄チェック表の記入等で健康状態を把握している。変化等については、スタッフ間で申し送りをし、常に現状について把握するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月に1回、本人・家族も出席してのサービス担当者会議を開催し、モニタリング・評価についてお伝えし、要望等の意見を出し合い、その方の現状にあった介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録やバイタルチェック表等に毎日記入し、月1回ユニット会議にて個別のケアカンファレンスを行い、情報を共有しながら介護計画の見直しや実践について話し合い、日々のケアに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	看護師の配置により、入居者の健康管理等ができるようになった。又、理学療法士との連携やボランティアセンター等の地域資源も活用している。		

岐阜県 福光グリーンホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域住民のボランティアによるお茶会、三味線の会、オカリナ等のレクリエーションや校区内の小中学校との交流の機会をもち、利用者は町内の清掃活動に参加するなど相互に協働している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	地域のかかりつけ医との関係を大切にし入所後もホームへの往診をして頂いている方もある。緊急時や入院が必要な場合は、病院との連携体制をとっている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤の看護師が利用者の健康管理にあたり、主治医との連携等を中心に、スタッフとも情報の共有化を図り、適切な受診等が受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院した病院に介護サマリーを提供し、利用者の日頃の状態を報告している。又、看護師を中心に安心した治療を受け、退院に向けての連携もとれるようにしている。職員も見舞いに行く機会を持ち、情報を交換している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時、終末期ケアは行っていない事を家族、主治医に伝えてある。重度化した場合、他施設の紹介をし、申し込みをして頂いている。又、重度化しても他施設の受け入れが決定するまでは、入居は継続して頂いている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人全体の講習会があり、出席して勉強している。又、毎月のユニット会議の席で、急変や事故発生を想定し訓練する時間を設け、実践力を身に付けるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に行っている防災訓練で、消防署の方から災害時の避難方法を学び、避難場所、避難経路確認をしている。運営推進会議で、地域の方の協力も得て避難訓練を行ったり、地域での避難訓練、講習にも参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりがかげがえのない存在であるという気持ちで、利用者に接するようにしている。居室内へ入る時は、必ず声かけし、着替え、入浴時、トイレ介助時など、カーテンやドアの開閉に配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者から何か言ってこられた時は、必ず本人と向かい合い、話を傾聴するようにしている。自己決定できる事は本人に決めて頂けるよう、わかりやすい言葉で話し理解してもらうようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間、就寝時間、入浴時間など決まりはなく、自分のペースで生活できるようにしている。食事は、時間や席などの希望を聞くようにしている。散歩、買い物、レクリエーション等も希望にそって支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理容院、美容院へは、家族が同行しているが、出張理容室を利用している方もある。毎朝髭剃り、整髪、身だしなみの支援もしている。服装は、自分の好きなものを着ていただき、2～3点の中から選んで頂く方もある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜切りや味付け、盛り付け、配膳の手伝い等をしてもらい、利用者と同じテーブルで楽しく会話を楽しみながら食事をしている。食後の片付けも共に行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量を毎回チェックしている。又、水分量も摂取量をチェック、少ない方には、水やお茶だけでなく、ヤクルト、カルピス、ゼリーなど多種の飲み物を用意し、すこしでも摂取できるよう工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、洗面所で歯磨きを行ってもらい、スタッフが支援をする必要のある利用者には介助を行っている。夕食後は義歯を預かり、洗浄剤での洗浄を行っている。		

岐阜県 福光グリーンホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄に関する具体的なアセスメントを行い、どの行為は自立しているのかという情報を職員が共有し、不必要な介助のないようにしている。又、トイレの声掛け誘導が必要な利用者には、排泄パターンにあわせ支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日頃より、水分補給をこまめに行い、水分摂取量をチェックしている。本人が好む飲み物やゼリー等も用意し、便秘にならないよう工夫している。又、散歩に出かけたりして、運動不足にならないよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの意志を確認し、入浴してもらっている。少なくとも週2~3回は、入ってもらえるように声掛けをし、体調不良時は、清拭や足浴を行っている。又、夜間入浴の希望があれば対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	むやみに訪室や声掛けは控えている。夜間は、廊下の照明は落とし、居室内に明るすぎる光が入らないようにしている。又、入眠時間や起床時間も決まりは無く、静かに寝ていただけよう音にも配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を読んで、薬の目的・用法・用量を理解するよう努めている。個人の薬袋に処方箋のコピーを貼り付けてあり、服用時には、誤薬がないよう、名前・時間等の確認をし、提供している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	以前お茶とお花の先生をされていた方によるいけばなやお茶をユニット内で楽しんでいる。又、趣味の手芸を居室内でされ、文化祭に出品されたり、カラオケがお好きな方には他の方々と共に楽しんでもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候・体調を考慮し、公園・コンビニ・薬局・喫茶店・ホーム周辺の散歩など要望に応じ行っている。又、出かける利用者が偏らないよう外出した人はチェックしている。		

岐阜県 福光グリーンホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人がお金を持つことの大切さを職員は理解しており、希望される方は、財布を所持している。買い物の希望があった時は、同行し、散歩を兼ね買い物に行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたいという利用者からの希望があった時の対応を家族とも話し合っ、個々に決めている。手紙のやり取りは自由してもらい、出来ない部分はスタッフが支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	朝、掃除機をかけ、夜、モップがけをして、各居室内は利用者と共に掃除をしている。居間には季節の花が生けられている。台所の天窓の光はブラインドでやわらげている。日差しが強い日は、窓のロールカーテンを下げ、テレビはつけっ放しにならないようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事以外は、座る場所が決められておらず、気の合った人と話ができるようになっている。廊下に長いすがあり、独りになることも出来る。又、和室に2~3名入り、気のあった利用者同士で過ごす時間も持てるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真を飾ったり、好きな雑誌を持ち込まれたり、大正琴やお茶、生け花の道具を持ってきて活用されている。又、趣味の手芸の道具を持ってきて、パッチワークや袋作りをされ生活を楽しんでおられる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロアやトイレ、廊下・階段には、手すりが取り付けられていて、床はバリアフリーになっている。エレベーターも設置されており、必要な利用者はいつでも使用でき、安全で自立した生活が送れるようにしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170102566		
法人名	医療法人友愛会		
事業所名	福光グリーンホーム(さるびあ)		
所在地	岐阜県岐阜市福光東3丁目10番8号		
自己評価作成日	平成22年9月30日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日			

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票(さるびあ)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員で話し合って事業所独自の理念を作りあげた。その理念を各ユニットに掲示し、全職員が理念を共有して実践にあたっている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所として自治会に加入し、清掃や防災訓練・敬老会等に利用者が参加して地域の一員として日頃から交流している。又、秋には、地域の方の協力を得て「文化祭」を開催し、多くの地域の方に参加していただいている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の理解や支援のあり方について検討し、「認知症サポーター養成講座」を開き、地域の方々に参加していただいた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、市役所の担当者・自治会長・班長・民生委員・日赤奉仕団・ご家族の代表に参加していただき、入居者の生活の様子を報告したり、防災やホームと地域の行事を交流すること等、種々意見をいただき、サービスの向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に出席を依頼し、その際指導・助言をいただくようにしている。又、実施指導で受けた内容や日常的にわからないことを聞いたり、連携を密にとるようにしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員研修を通し、身体拘束廃止に向けて取り組んでいる。玄関の施錠については、現時点では、事故防止のため施錠しているが、将来的には開放できるように検討していきたい。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員研修を開催して学ぶ機会をもち、虐待が絶対ないように努めている。		

岐阜県 福光グリーンホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業を活用しておられる方があり、スムーズに制度活用ができるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居にあたっては、重要事項説明書で充分説明を行い、理解・納得の上で、利用契約を結ぶようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が来訪の折や、サービス担当者会議等で意見・要望を聞くようにしている。そららをユニット会議やリーダー会議に反映している。又、玄関にご意見箱を設置している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のリーダー会議・ユニット会議・全体会議に担当部長・統括責任者・管理者も必ず出席し、職員の意見や提案を聞くようにしている。又、管理者はそれ以外でも、スタッフからの意見をいつでも聞くようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務実績や日々の努力を評価し、給与・賞与等に反映できるようにしている。又、有給休暇もリフレッシュ休暇として、希望の日に取れるような体制をとっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月、法人内研修が開催されているので、勤務以外の職員は参加している。又、キャリアアップのため希望する外部研修にも参加できるように推進している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修等を通して、他施設と交流を持ち、ネットワーク作りをしている。又、相互に訪問する機会もつくり、サービスの質の向上につながるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、本人及び、家族と面談を行い、心境・不安や悩み等を聞き、初期に少しでも信頼関係を築けるよう努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族がどのように思っているのかを、しっかりと聞きし、安心・納得したうえでサービスを行っていただけるように説明等も行い、良い関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談の内容から今の状態を把握し、本人・家族の要望等を聞き、当ホームの利用だけに限らず、「その時」に必要な支援を見極めた上で、他施設の利用や紹介を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活をしていく上で、全てこちらでやってしまったり、介助していくのではなく、出来る所は一緒に行ったりして、人生の先輩として尊重した関わりとなるよう心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に安心して頂くとともに、ご家族も職員と一緒に本人を支えていくことが出来るよう、情報交換をしている。又、面会時や電話でも状況報告をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今まで大切にしてきた馴染みの関係が継続できるよう、家族との連携を密にし、協力体制を整えている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の生活や身体状況、利用者同士の関係性を把握して、その時々々の状況を見極め、個々が孤立しないよう見守り・声掛け・介入を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に移られた時には、ホームにいたときの情報を伝え、相談があれば、相談内容に対して、支援していけるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の中で、本人の希望を聞くようにしている。又、うまく表現できない人には、何気ない会話や表情から想いをくみとり、日々のケアに反映できるよう検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面談で、本人や家族から今までの暮らしぶり等を聞き取り、入居後も出来る限りその方の生活の情報を得よう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝のバイタルチェックにて健康状態を把握し、日々の生活の様子はケース記録に記入している。情報は、共有できるように申し送り等に報告し、常に現状をつかめるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月に1度、家族・本人を交えて、サービス担当者会議を開催して、モニタリングや評価を伝え、意見を出し合い、その方に合った介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の中で起きた事や会話などを、ケース記録に記入し、ユニット内でのケアカンファレンスを通して、職員間で情報を共有し、介護計画の見直しを行い、ケアを実施している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	看護師の配置により、入居者の体調に変化があった時、24時間連携が取れるようになった。又、地域包括支援センター等の地域資源の活用も行っている。		

岐阜県 福光グリーンホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の方々との交流の中で馴染みとなり、お茶会や演奏会などボランティアとして来て下さり、楽しく交流している。又、地域の日赤奉仕団の方とは、掃除やサロン等の活動を通し、交流を継続している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居にあたり、かかりつけ医を継続して主治医として受診や往診がスムーズに出来るようにし、適切な医療が受けられるよう支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤の看護師が主治医との連携をとり、入居者の健康管理にあたっており、ケアスタッフと情報の共有化を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者の入・退院時には、看護師が中心となり、医療機関との情報交換を行い、安心した治療を受け、早期に退院ができるように調整している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際に、重度化についての説明をし、他の施設(特養など)への申し込みもしている。他施設との連携をとり、スムーズに転院ができるよう支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変時に備えて、マニュアルが整備しており、職員も周知している。院内研修や外部での研修の他に、必要に応じて勉強会を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の立会いの上、避難訓練を年2回行っている。運営推進会議等を通じて、近隣住人にも協力をお願いし、避難訓練にも参加して頂いている。又、入居者一人ひとりの避難方法を居室の入り口に掲示している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人の生まれ育った環境や性格等を考慮し、又、個々の人格を尊重し、一人ひとりの心身の状態に合わせた声掛けや話し方をしている。又、更衣介助やトイレ介助の際もプライバシーに配慮して行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が一方向的に決定し進めていくのではなく、場面ごとに全体で決める事や部分的、個別的に決める事も声掛けし、自己決定できるよう促している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の日課を優先することなく、何をする際にも、確認・同意をとり、その人にとって無理強いとならないよう、その人らしいペースに合った過ごし方をして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容は、ご家族と共に出かけられる方や、出張理容師により散髪される方もある。季節に合った服をご自分で選び、化粧をしたりと、利用者ご本人に合った支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日曜日のメニューは、利用者に聞いて好きなものを作っている。調理や配膳や味付け、後片付け等も手伝って頂いたり、教えてもらうこともあり、積極的に行っている。好みの聞き取りもしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日、食事量や水分量をチェックし、不足しないよう努めている。もし不足等があれば、医師とも連携をとりつつ、健康が損なわれないよう心掛けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	うがいや、歯磨きは毎食前後、全員の方に声掛けして見守っている。義歯の方にははずして頂いて、介助も含めケアを行い、洗浄剤にて洗浄を行っている。		

岐阜県 福光グリーンホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表を使い、その人の排泄パターンを把握し、失禁のある方にも時間を見て声かけして、トイレ誘導を行い、出来る限り紙パンツではなく、布パンツで過ごして頂けるようにしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、出来る限り排便量・状態の確認を行い、それを記録している。便秘になりやすい方については、こまめに水分を取って頂く。他に繊維質の食事を作ったり、運動による予防を行い、便秘改善に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の声かけを行い、希望のある方はできるだけ入浴して頂き、希望のない人についても、入浴のチェック表をもとに、間があかないよう声掛けし、清潔を保てるようにしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれの生活習慣を把握し、見守り・声掛け・介助を行っている。夜間眠れない方については見守りをしている。日中は自由に自室やソファ等で休んでいただき、充分休息をとっていただけるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋は医療情報やお薬情報と共に綴っており、いつでも確認・理解出来るようにしてあり、把握に努めている。服用時には、誤薬のないよう注意をはらっている。病状の変化があった際には、看護師に報告し、対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や持てる力を考慮し、全体でゲーム等を行うばかりではなく、個別にもやりたいことをして頂き、生活に活力を持ってもらえるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や身体状態を考慮し、散歩や買い物等、ホーム以外に出掛けられるよう支援している。家族とも連携をとり、本人の希望される場所への外出支援をしている。		

岐阜県 福光グリーンホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員は、本人がお金を持つことの大切さは理解しており、希望のある方は、財布を所持して頂き、一緒に買い物に出かける等の支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	「家族と話しがしたい」という希望がある際には、電話で話しができるように支援している。又、家族等から電話が入った際も、直接話しをしていただけるよう支援している。手紙のやり取りも支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレ・浴室は、リビングより直接見えない場所にあり、プライバシーに配慮している。共有の空間は、明るすぎない照明器具が使用されている。キッチンも、対面キッチンになっており、料理を作る音などが聞こえるようになっている。生け花等により、季節を感じられるよう工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間であるフロアは、いくつかの空間が出来るよう、ソファや食卓テーブルの配置に考慮し、気のあった利用者同士で過ごせる場所がある。廊下にも椅子を用意し、人の気配を感じながらでも一人になれる空間もある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が以前から使用されていた家具や布団・のれん等、馴染みのあるものを居室内に置き、居心地良く、安心して生活して頂けるよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下や階段等、必要な所には、手すりを設置しており、持てる力を活かしながら、安全に生活が送れる環境にある。又、居宅には、表札を掛け、トイレには、誘導表示をして、安全で自立した生活が出来るようにしている。		